

GW後半の4日から6日まで、新潟県の刈羽三山へK原塚さんリーダーの9人で行った。

4日の朝、新潟の山へ登るのだからと、雪山山行を想定し、完全装備をして北上尾駅へ向かった。

黒姫山へ行く予定が登り場所が分からず、急遽秋葉山に行った。標高340m。

その後、K原塚さんの「道なき道に行く」訓練があった。小枝を踏みかき分け、木をまわりたいで、登ったり降りたりと道なき道を行った先には、満開の藤の花が綺麗に咲いている木を見つけた。その高台から降りようと降口を探すと道のようなものがあり、そして下山。

夜、キャンプ場にてテント泊。自炊場があり、トイレもあって快適だが、ブヨが多か

ったのが難点。K原塚さんお手製の料理を食べ、その後の語らいも楽しかったが睡眠には勝てず明日からの山行もあつて早々に就寝。

夜中に、すごい雨音！

5日、朝起きてみると雨は上がっているが、そこに濡れた後。テントの中も湿っていた。

この日は米山。標高993m。夜中の雨が嘘のように、よく晴れ渡った天気。空が真っ青。米山の頂上から日本海や佐渡がすぐそこに見えた。この日の夕食は惣菜を買って食べようということになり、スーパーへお買い物。

パック詰めのお惣菜、巻き寿司や餃子や何やら、めいいっぱい買って、賑やかに夕食。でもね、何か温かいものが飲みたいとわがままを言って、

K原塚さんからカフェオレのスティック袋をいただき、お湯を沸かして飲んだ。やっぱ、カフェオレだね♡うまッ♪

6日、テントを撤収し、残り物で朝食。

印元と厚揚げのスープ、餅入りだったつけ？他、パンなど。この日は八石山へ。この日

も天気は快晴。登山途中、ピンク色の花びらが大きいシラネアオイが咲いていた。福DM子さんが「この花が見たくて登ったんだ！」と、とても嬉しそうに言っていた。

八石山の頂上から米山がくつきりと見える。その頂上では、その日が八石山の山小屋開きのようで、ボランティアの方々が忙しそうに山小屋やトイレや神社の掃除をしていた。

夜に雨が降った日があったが、昼間は天気にも恵まれた3日間だった。

ブヨが非常に多くて閉口した。新潟と聞いただけで雪深いと思いき、完全装備で参加をしたものの、アイゼンを使う必要も全くなかった。

米山に登る時に少し雪があったくらいで、大層楽しく山歩きができた。

シラネアオイの花は初めて見た。4枚の花びらが菱形の形をしていて、鮮やかなピンク色。ちょうど満開時だった。

新潟・刈羽三山 (秋葉山、米山、八石山)

米山さんから、雲がでたアー♪

福DM

私が「米山」を知ったのは、今から一年前「柏崎原発」を見学した時でした。原発から見た富士山のような形の山を地元ガイドから「あれは米山さんですよ」と教えられた。

「米山さん」とは人のような名前。おもしろいなあ。今回、五月ゴールデンウィークにK原塚さんから、新潟の山へ行く、その中に米山がはいっていた。米山は二日目、駐車場地元若い青年も「春になり、これから、いろいろな山に登るので、まずは米山さんにごあいさつ」と言っていた。この人も「米山さん」

と言った。そういえば、「米山さんから・・・」と言う、民謡を皆知ってる。「米山さん」は新潟の山なのに関東の横浜の出身の私もこの民謡を知ってる。鹿児島出身の利光も知ってる、秋田出身の渡部さんも、東京出の佐々木さんも、埼玉出のK原塚さんも自然に口ずさむことができる。なぜ、こんなはこの民謡は親しまれているのでしょうか。

日本中の人が知ってる「米山さん」。山頂には日本三代薬師の一つ、米山薬師が祀られ、また、とてもきれいな避難小屋、トイレがあった。よい天

気で展望に優れている。西側の海の所に高い鉄塔がたくさん立っていた。「あれが原発よ、クワバラ、クワバラ」地元の人が教えてくれた。

三日目は八石山へ。ここには「しらねあおい」がある時とき、とても楽しみにしていたが、それはすぐ、みるこどができた。それも自分の身近で、私は初めて見た。心臓がとまりそうだった。場所により、「しらねあおい」の群落がたくさん。あまりに自分のそばにあるので、盗られないかと心配してます。シャベルで一回、グサツとやればすぐ盗れる、やばいところにあります。そして、にりんそうの大群落、その中に「しらねあおい」が群生してます。すごい、の、一言。

山頂はすぐつきました。大展望です。大勢のハイカーが



やすんできました。その中で、地元の人達が「お休み処」や避難所、トイレを大掃除しました。木の枝に毛布を引っ掛けてほしてました。窓枠のサンや電気の笠まで、きれいにしてました。我が家の大掃除よりすごい。電信柱がないのに、どうして、電気がつくのか、聞くと、「ソーラー」が屋根にのっかっています。「では水だけ持ってくればよいの

ですわ」というと、「ベツトボトルに水は置いてますから、沸かして使ってください」これまた、親切でした。

「夜は星がきれいさ、柏崎の花火大会には、ここへおいで。すごくきれいだよ。」また、嬉しい言葉でした。最後に鉄塔がたくさん立っているのを聞くと、「7号機まであるんだよ、世界一大きな原発だ。テロが一発、ボンとやったら、日本は全滅さ。コワー！」その言葉にぞっと寒気がはしった。「また、来ます」と言い残して下山。地元の人達に愛されている山でした。お願い、「しらねあおい」を盗らないで。そして、日本の平和を祈りながら埼玉に帰ってきました。

米山さんから、雲がでたア

今に夕立がくるやら

ビツカラ シャンカラ

ドンカラリんと 音がする

ドンカラリんと 音がする

今に夕立がくるから

ビツカラ シャンカラ

ドンカラリんと 音がする

※三階節 新潟県柏崎地方の民謡。盆踊り歌。のち「米山(よねやま)さんから雲が出た」の歌い出しで、座敷歌として流行。曲名は、同じ文句を3回繰り返すからとも、仏教の三界からともいう。

「大辞泉」





石D美壽子

楽しい山行となりました。

昨年引き続き今年のゴールデンウィークも新潟の山行に参加させていただいた。車二台九人での山行。

一日目の黒姫山は登山口がいまいちなので里山の秋葉山に変更。わらび取りの男性一人と出会っただけの静かな山だった。

二日目は米山。あの有名な民謡に出てくる米山と始めて知った。お花も色々見ることが出来たが、白根葵をSさんが見つけたときは歓声が上がった。山頂からの展望も三百六十度の素晴らしい景色を堪能できた。

三日目は八石山。この山は地元住民が大切に整備し愛されている山だと解る。花も沢山みることができた。白根葵も近くで沢山見ることが出来

刈羽三山感想

植M

大変お世話になりました。ありがとうございます。

目的地へ向かう車の中の時間も、「旅」山を歩く時間も「旅」キャンプ場での語らいも「旅」5月の爽やかな風が斜面を横切って流れてきました。すべて素敵な時間でした。穏やかな日差しの中で、ときどき、考えていたのは、職場

の仲間のことでした。旅の時間の中で未来と過去の自分の姿を思い描き、「あーでもない、こうでもない」と思案していました。そして、一人一人の願う幸せが柔らかく温かく叶ったらしいなど、切に願っていました。新潟の海と空の間はどこまでも切れ目なく続いていました。自然であったら良いのに、そのままであつたら良いのに。また、行つてみたいのです。会の皆様、ありがとうございました。



福DT光

今回は新潟刈羽三山（刈羽黒姫山、米山、八石山）をめざしてのお出かけです。

黒姫山は思いがけず大雪で、登山口もわからなかったし、トレースもなかったの、あきらめました。そこは段々畑が広がり、西洋皿を伏せたようなきれいな畑があり、もう農家の人が機械で雪をどけるのに、大忙し。とてもよい景色だ。田植えのころ、稲が黄色に染まるころもう一度訪れてみたい。

さて、それではどこの山に行こうか、時間もないことなので、地元の低い山（三四〇m）秋葉山の登る。地元の人しか知らない山で、偶然地元の人が歩いていたので、地元の人に聞き、山に入る。わらびが一杯。歩きながら皆で取

る。すると、地元のおじいさんに逢う。ワラビをたくさん取っていた。そうか、地元の農家の人が入り、山菜取りをする山らしい。すぐ山頂にいたが、本当の山頂は他にあらかもしれない、と、踏み跡をたよりに前に進んだが、途中で踏み跡がなくなり、藪こぎしたが、途中で引き返した。秋葉山の山頂はやはり、我々が昼飯をとった所。目の回りで、ブンブンとうるさい。鼻の穴、耳の中、口の中、「美子は黒い虫をたくさん食べた」テント場に行く前、薬屋ですプレーを買う皆で掛け合った。米山は標高差が七〇〇m途中で残雪もあり、足場が悪く大変な思いをした。山頂は大展望で天気もよく大感激した山だった。

【山行日】

H 27年5月4日〜6日

【参加者】cl K原塚、佐々KM、福DM、福DT、渡B、及K、石D、植M、TK



新潟刈羽三山

里山の八国牡丹

されたりし
てかろうじ
て守られて
いるらし
い。

TK

『1科1属1種の正真正銘
の日本固有種。しかも10cm

近くにもなる大型の華麗な花
(正確には萼片)が咲く、ま
さに日本を代表する植物とい
ってよい』と、白根葵(シラネア
オイ)が「山の花1200 (青
山潤三著 (株)平凡社発行)」
に紹介されている。残念なが
ら、関東近辺では高山に登ら
ないとなかなか出会えない。

地元柏崎市の地元のHPには、
「白根葵が八国山(やぐら)に
群生し『八国牡丹』と言われ
て大事にされていたが、乱獲
により激減してしまった」と
ある。有志により保護、植栽

八国山は標高518mで他の刈
羽三山の米山993m、黒姫山

891mに比べれば低い。ガイド
ブックにも紹介されておらず、
1/25000地図にも登山道など
の記載もない。地元の『八国
の自然を守り親しむ会』作成
の地図を送付してもらった。

中腹の桐が3・4本植えら
れている場所には「カヤカリ
場」跡があり、実を着けたた
くさんの片栗や蕈類、三葉土
栗(ミツバトリス)等を見ること
が出来る。里山である、正確
には里山であったと書くべき
か? 茅葺きの家はもうない
そうであり、今は利用してい

ないとのこと。コシヒカリの
本場だけに休耕田はほとんど
ないが落葉の堆肥作りもして
いないだろう。朴乃木(せきぎ
)には花が咲いている、その朴
葉も今は料理には使われてい
ないと思われる。

標識・案内板もあり、登山
道は整備されており道迷いの
心配もない。積雪も見当たら
ない。当日も地元の方による
登山道、小屋等の保守点検が
なされ、山頂の神社も雪避け
の板を取り除いていた。

青々とした木々の葉や群生
する白い二輪草の花の中に咲
き誇った八国牡丹は、数は少
ないながらも私たちを癒して
くれた。他にも多くの種類の
花に巡り会えた。

現状の姿は、地元の『八国

の自然を守り親しむ会』等の
ボランティアの方の多大な貢
献のお陰と想像できる。いく
ら感謝しても感謝しきれな
い。

【見られた花々や蝶】

白根葵、天南星(テンナンショウ)、
浦島草、二輪草、大葉黄蘗、
常葉锚草(トキモシキ)、花筏(ハ
ナヅカ)、山荷葉(ヤマカキ)、雪
椿、猩々袴(オウゴン)、雪
越後寒葵(ユキゴトウ)、稚児
百合(コトコ)、青木の花、楓
もみじ類の花、朴乃木の花等
など。

ギフチョウ、逆八蝶(ササユヅ
)、揚羽蝶(トビ)

【山行日】H27年5月6日

【参加者】CLK原塚、佐々K
M、福DM、福DT、渡B、
及K、石D、植M、TK

『1科1属1種の正真正銘

里山の八国牡丹

八国山は
標高 518 m で
他の刈羽三
山の米山 993

の日本固有種。しかも 10 cm

近くにもなる大型の華麗な花

(正確には萼片) が咲く、ま

さに日本を代表する植物とい

ってよい』と、白根葵(シロネ)

が「山の花 1200 (青

山潤三著 (株)平凡社発行)」

に紹介されている。残念なが

ら、関東近辺では高山に登ら

ないとなかなか出会えない。

地元柏崎市の地元の HP には、

「白根葵が八国山(やぎぎ)に

群生し『八国牡丹』と言われ

て大事にされていたが、乱獲

により激減してしまった」と

ある。有志により保護、植栽

されたりしてかろうじて守ら

れているらしい。

m、黒姫山 891 m に比べれば低

い。ガイドブックにも紹介さ

れておらず、1/25000 地図に

も登山道などの記載もない。

地元の『八国の自然を守り親

しむ会』作成の地図を送付し

てもらった。

中腹の桐が 3・4 本植えら

れている場所には「カヤカリ

場」跡があり、実を着けたた

くさんの片栗や蕈類、三葉土

栗(のぎ)等を見ること

が出来る。里山である、正確

には里山であったと書くべき

か？ 茅葺きの家はもうない

そうであり、今は利用してい

ないとのこと。コシヒカリの

本場だけに休耕田はほとんど

ないが落葉の堆肥作りもして
いないだろう。朴乃木(やぎぎ)
には花が咲いている、その朴
葉も今は料理には使われてい
ないと思われる。

標識・案内板もあり、登山

道は整備されており道迷いの

心配もない。積雪も見当たら

ない。当日も地元の方による

登山道、小屋等の保守点検が

なされ、山頂の神社も雪避け

の板を取り除いていた。

青々とした木々の葉や群生

する白い二輪草の花の中に咲

き誇った八国牡丹は、数は少

ないながらも私たちを癒して

くれた。他にも多くの種類の

花に巡り会えた。

現状の姿は、地元の『八国

の自然を守り親しむ会』等の

ボランティアの方の多大な貢

献のお陰と想像できる。いく
ら感謝しても感謝しきれな
い。

【見られた花々や蝶】

白根葵、天南星(アマノハハコ)、

浦島草、二輪草、大葉黄堇、

常葉锚草(ギョウケイ)、花筏(シ

ナタ)、山荷葉(ヤマカキ)、雪

椿、猩々袴(オウゴン)、

越後寒葵(ハルヒギク)、稚児

百合(ハユヒ)、青木の花、楓

もみじ類の花、朴乃木の花等

など。

ギフチョウ、逆八蝶(ササキ)

ご、揚羽蝶(トビ)

【山行日】H 27 年 5 月 6 日

【参加者】CL K 原塚、佐々 K

M、福 D M、福 D T、渡 B、

及 K、石 D、植 M、T K

刈羽三山の感想



春の雪解けの新潟の山を訪れたのは何回目になるだろうか5月の連休に行くのは昨年の五頭山に続いて2回目である。今年も期待通り、たくさんの花に出会えました。低山なのに高山の花畑のように一面に花、花、花です。地元の人々にあいされ、守られている里山の景色がそこにはありません。春の新潟の山は私も楽しめる雪山があつて、花があり、最高です。企画してくださったK原塚さん、TK己さんに感謝です。

佐々KM





【山行目】 H 27年5月4日～6日
 【参加者】 cl K原塚、佐々KM、福DM、

福DT、渡B、及K、石D、
 植M、TK